

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 風しん検査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111 (内 4655)

E-mail：c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,496 千円 (前年度予算額： 17,724 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	17,724	8,862	0	0	0	0	0	0	8,862
要求額	16,496	8,248	0	0	0	0	0	0	8,248
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

平成25年の風しんの流行により、全国で14,000人以上の風しん患者と32人の先天性風しん症候群患者が報告され、平成20年の全数把握調査の開始以降、最大の流行となった。また、平成30年には、ワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に風しんが流行し、2,900人以上の風しん患者が報告された。今後も、全国でワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に再流行し、先天性風しん症候群患者の発生が懸念されている。

(2) 事業内容

先天性風しん症候群の予防を主たる目的に、予防接種が必要である風しん感受性者を効率的に抽出するため、風しん抗体検査を医療機関で実施する。

対象者：妊娠を希望する女性

妊娠を希望する女性の夫、同居者

風しん抗体が十分でない妊婦の夫、同居者

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

(4) 類似事業の有無

平成25年度(7月1日開始)、先天性風しん症候群先天性風しん症候群の発生を防止するため、出産を希望する女性、妊娠している女性の夫、2回の定期接種の機会を与えられなかった世代の男性を対象に風しん予防接種の費用について、市町村と協調して、その一部を助成した。

<助成対象者>

○23歳以上(H2.4.1以前生まれ)の妊娠を予定・希望している女性

○妊婦の夫(胎児の父親)

ただし、次の人を対象外とする。

- ・風しんにかかったことがある人
- ・風しんの予防接種履歴がある人
- ・妊婦健診で風しんの抗体が十分にあると判定された妊婦の夫

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
印刷製本費	200	検査受診時の問診票、風しん抗体検査の案内リーフレット
委託料	16,296	医療機関における風しん抗体検査費
合計	16,496	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

風しんに関する特定感染症予防指針(厚生労働省)

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 先天性風しん症候群の予防を主たる目的に、予防接種が必要である風しん感受性を効率的に抽出し、県内での先天性風しん症候群の発生を防ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
風しん抗体検査実施数		1,493 件	2,600 件	2,400 件	2,400 件	62%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 先天性風しん症候群を予防するため、妊娠を希望する女性、妊娠を希望する女性の夫または同居者及び風しん抗体が十分でない妊婦の夫または同居者に対し、風しん抗体検査を実施した（1,493件）。</p>
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	平成25年の風しんの流行により、全国で14,000人以上の風しん患者と32人の先天性風しん症候群患者が報告され、平成20年の全数把握調査の開始以降、最大の流行となった。また、平成30年には、ワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に風しんが流行し、2,900人以上の風しん患者が報告された。今後も、全国でワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に再流行し、先天性風しん症候群患者の発生が懸念されていることから、事業の必要性は高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	新型コロナウイルス感染症の影響により検査件数は減少しているが、再流行によって検査件数が増加する恐れがある。 また、受検者の40%に風しん抗体が十分でないことが判明しており、予防接種の必要性の判断に繋げることができている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	過去の抗体検査の結果、十分な量の抗体があることが判明した場合は、本事業の対象から省いている。県内全域に協力医療機関があり、検査を実施しやすい体制を整備している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 風しんの再流行に備え、早期に風しん抗体価の低い女性やその夫や同居者、風しん抗体価の低い妊婦の夫等を発見するため、事業の周知に努める必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 厚生労働省と連携し、風しんの流行状況等を見極めながら、実施していく。
